

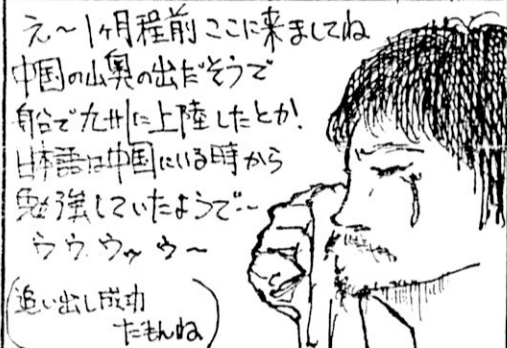
寺崎組新聞

発行所 寺崎組新聞社

北海道野宿塾 行けど迷めど林道はいいぞ。野宿塾探しの行き止まり。本庄司のスタマモダリ編



「深緑のルビッコを快走の隊長XV
参加者だけが直近に見て感じる光景だ。
寺崎組の本場の姿をこの対向の林道で
たまたま4人が見たのだ。」



「デイグリー消ゆる?!」
第39回野宿塾は、8月20日北海道は苦小牧港を起点に行われた。参加組員4名、7月12日佐多岬から日本縦断を果たし、よくもまあ生きていた、デコンブワイヤーブッチギレXRストー。仙台港に、鈍く光る一夜会「2文字」東京から6号線北上中、2度の雷雨に遭いながらもフェリーで上陸バハ地下鉄、バイクに乗るのは1年振り、塾参加もバイクストライアール以来と、ほとんど一般人と化している。



この返事。気を取り直して午後1時、苦小牧出発。途中、昼食をビール無しで食べ、陽もまだ高いというのに珍しく林道へ、組員を先頭に地下鉄、北脇そしてストーと続き、毎分100m離れながら元本庄司が追っかかり、一路厚真ダム近辺をうろつき回り、一路夕張へ。いよいよ夕飯の買出しだ。ここで地下鉄の新兵器登場。ビールを折り畳み式のクーラーバックに突っ込み、それを又ザックに突っ込む。みんなの分まで頼まれてしまうので、その後走りながら心配だが、地下鉄独特の裏会根性、難無く走ってしまおう。

一方その頃、暇な4人はようやく事態の重大さに気が付き、本庄司捜索隊を結成する事に決めた。川の落ちたのではないか、川でアライグマになっているのではないかと等々、一応心配しているたのである。林道を走る人にアライグマを見かけなかったかと尋ね回り、道にバニックブレーキがなかったかどうかの捜索の結果、それらしきものは何もなかった。本庄司のことはあきらめざるをえなかった。これから家に帰る自衛隊にフェリーターミナルで乗船名簿に本庄司の名前を確認してもらったことを頼み、めでたく解散となったのだ。

去る8月27・28日に、長野県は例の入笠山キャンプ場にて、道祖神94海外ツーリングの宴が催され、寺崎組員以下組員約10名も参じた。93年の宴に続き、約二百名のバイクと四輪車が集結し、概ね好天に恵まれ、今回も盛況な宴だった。いつもの組会とは違って組外の善良な一般民間人方達が多くいらっしやっっており寺崎組の焚火周辺にも前同様に全国の寺崎組本読者(女性も含む)が三々五々集い、そしてあきれ立て去って行く……いつもの光景であった。

恒例の抽選会では組員数名も当選しTシャツ、ステッカーを頂いた。配給の夕飯は豚汁、朝食はおにぎり&牛乳他にもアルコール類、ソフトドリンク等々、夏季ということもあってか前回より糧食面ではかなり縮小されていた。伊勢兄弟がいつもの焼肉と、翌朝は伊勢うどん。須藤さんが体調悪化で出方ダウン。浜島監督のBJAJAのナンバープレートが脱落紛失。青木さん、借物R11Zにオフ姿で乗車。以上

「原庄司の妻は、本庄司の取り次ぎをやらせようとした。その日、北見まで走った組員は高校時代の友人宅でさんざん酔っぱらった挙句、大変心配して自衛隊に電話をした。自衛隊の返事「いた、いた、乗ってた」バカヤローであった。記 組員



事になった。一方その頃、本庄司は走り去るバイク4台の土埃を浴び、益々アライグマ顔をキョトンとさせてタラタラと走っていた。先行したバイクがどこへ行ったかも分からず、来た林道を引き返り、夕張でしっかりとメロンを実家へ送り、のうのうと苦小牧港のフェリー乗り場へ向かったのがあった。

第二回道祖神「宴」入笠山

入笠山、10人の「お泊り」……女性2人は去年のBMW沖で……
出た友人のRGがニマド

GXR400 10万km走行達成

去る8月20日、静岡県浜松市のR362に於いて、酔っ払い金子の愛車GXR400のオドメーターが遂に10万kmを刻んだ。学生時代、スクラップ寸前の姿で先輩からタダで引き取って来て以来、北は足寄、南は佐多岬まで轍を刻み続け、11年目にして悲願達成だ! 思えば豪雨の秩父の山中で点火系がリークし、2時間以上キックし続けたり、宮崎でいきなりシートレールが折れたりと色々な事が有りました。水筒につめておいたおいたアーリータイムスをタンクとエンジンにかけて乾杯し幸せな気分になった夏の一日でありました。

合掌 目差せ 100万km がんばれ

なかがと仕事で、立派なバイク。えらい

「水の国 日本を旅して」

日本経済の成長は、今年も半端な暑さじゃなく、旅の12日目に深淵谷合流林道を下って瀬戸内側へ降りた夕暮れなんか、潮の香りと一緒には、汗がベタベタな状態になつて、それから一度も四国山地から内海へは降りなかつた位に大変だつた。



だから野宿地は川原にしようかと、夕暮れ間近になるとキョロキョロと川筋を覗いて走っていた。でも油断大敵なわけ、安芸の張川林道の測の内側でテントを張り終えてパンプで川へ走った日など、どこから来たのか若い男女が歩いていたりしてテントに逃げ返らなくてはならないのだ。

空しく正座などして、ファスナーを開けて二人の姿を追ったり、ビールが温くなる心配をして一本飲んだり、これが仲々大変だつたりするのだ。川への入り方だつて、ちゃんと作法や手順があつたりするわけだ。足を洗うふりをして、やがて周囲に視線がない事を確かめてやっと水につかり、そして無礼無儀なわけだ。後は野となれ山となれ状態になったら洗濯だつてしなくてはならないし、泳がなくてはならないし、旅も苦労が多いものだ。

雨が降るべき所に降るならば、それはそれでいいのだが、和歌山の龍神などは一年中降っている所なわけ、おまけに旅の17日目にとうとう台風7号に追い着かれてしまった。

南紀雨どころの本領発揮とばかりに台風が下関あたりに移動したのに、どこまでが台風の雨なのか区別も付かない位に降るもので、小森谷林道の入口で2日も閉じ込められてしまった。雨停滯は退屈で悲惨だ。

と一応は孤軍奮闘するわけだが、ドカシューを丸めて何もかも包み込んでシュラフにくるまって眠る結論に達してしまつたと、悟りも諦めにも変るのだった。さて、私一人が水の恩恵に喜んでばかりはいられない。

旅の途中九州、四国、瀬戸内の水不足は深刻な極め、各地のダムでそれを実際に見て来た。ダムは放流を止めてしまい、下流の沢が枯渇して白い岩肌が目立ち、続く様子は恐怖だつた。大木屋が沿々と続く様子は恐怖だつた。大木屋小石川林道へ向かう途中、V字の深い谷が合流するダム底には、恐怖を通り越して悲しみを感ずる。



森林破壊、人工の集中、温暖化現象と人為的な原因以外に日本の山の特性が水害をもたらす場合もあるという。旅の21日目、御岳の一連の大林道群を抜け月夜沢林道を走行中に実際にその恐怖に遭遇してしまつた。

らしい所なのだ。8年間に10回通過の油断と、先を急ぐ心が峠で止まる事もさせないまま一気に下らせた。そして土砂降りになった。

野麦峠への県道の分岐に出て、やっとならぬ心から開放されたのだが、しばらく川の流れを見たまふ動けなかつた。地元の人達も川原の重機を回避させるのに走りまわっていた。

奈川へ下る途中、平行して流れるもう一本の沢が濁つていないのを見て、その話で実感できたのだ。

去る7月某日、能登半島にて行なわれたTW集會には、6名のTWオーナーが参加し、能登有料道路、千里浜渚ドライブレインを6台のTW2000が爆走した。詳しくは、「モーターサイクリスト」10月号279ページを御覧下さい。

フェリーのビールを考える

僕は過去10数回長距離フェリーに乗ったが一度も食堂とか、レストランに入ったことが無い。フェリーの食堂は入っても高いし、日常の生活でも食費は減らさなければ行かないので自然にこたえてしまつた。給湯室もフェリーには必ず付いてるので、カップメン等で何とかする物である。問題はビール。大量に買ひ込んでいいが、やっぱりつめたビールがいい。寒い時期は甲板に置いておけば冷やそうだがそれもできない。てなわけでフェリーのビールを考える。

始めて乗った長距離フェリーは苦小牧→東京で平成元年当時350mlが250円、500mlが350円だつた。(と思う)今や「さんふらわー」になつてしまつたので(船はそのまま、塗替え)良くなるが、今思えばとても良心的だつた。次ぎに乗つたのが高知→東京の「さんふらわー」、フェリーターミナルで350mlが250円だつたので、船内もその値段だと思つた。最初に買ったフェリーも350mlが250円だつたのでそう思つた。

フェリーなんかあれだけ容量があるのだから定価とは言わないが、一割増の値段でもパチは当たらないと思つた。しかし、それと違って到着まで飲んでいそいな奴(組長も怪しい)が出そうなのでフェリー会社の配慮かもしれぬ。

地下録記
この新聞は年6回の発行を予定しております。年間購読料は二千円以上です。購読希望の方は何らかの方法(現金書留・郵便振替・普通封筒に入れて)で送っていただければ幸いです。この新聞を永続させるためにも原稿もどきも新聞制作のお手伝いにも来ていただければ幸いです。

前原弘昌著『自由じかん2万キロ』を讀んで。ここ数年、特にオーストラリアを走るライダーが多くなつた様に思う。私達のまわりにも数人いたりするわけ、各人各様の旅のスタイルにその人の人格さえ見ることが出来る。

『バイクキャンピング』を讀んで。ハウツー本になつた事に地下鉄は不満らしい。自分の体験や、汚い旅姿がとつてハウツーの域を過ぎてしまつていくからそう思うわけだ。

だが我組編集部はひそかに恐れている事がある。ザック姿の怪しいバイク乗りが、林道の支線や川原に溢れてしまつたらどうしよう。酒屋兼雑貨屋にそんな人達が押しかけたならば、日本の秩序だって乱されそうなのだから、日本の釣具屋さんを巡る人も増えそう。

「原稿大募集」のお知らせ
良い子も悪い子も寺崎組もその予備軍も自分らしさを原稿で写真でマンガで自分だけの表現でしてみませんか？
送り先は左記
〒一八五
東京都分寺市東元町三二九九七
スタジオエッグ寺崎組

組長執筆中雑誌

- バックオフ 毎月24日発売
- オートキャンプ 毎月6日発売
- サイクルフィールド (季刊) 毎月15日発売
- CCV (季刊) 毎月15日発売

組長単行本新発売

バイクキャンピング

平成六年度寺崎組集會地

- 10月8日(正午)より 熊本県菊池郡旭志村鞍野野営場
- 11月26日(12時)集合 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町 宇久井、フェリーターミナル前
- 12月23日(正午)より 山梨県韮崎市小武川上流
- 平成7年2月11日(正午)より 東京都奥多摩町六ツ石山頂上

定定期購読料の

「お知りませ」
この新聞は年6回の発行を予定しております。年間購読料は二千円以上です。購読希望の方は何らかの方法(現金書留・郵便振替・普通封筒に入れて)で送っていただければ幸いです。この新聞を永続させるためにも原稿もどきも新聞制作のお手伝いにも来ていただければ幸いです。